



2026 年 2 月 4 日

各 位

会 社 名 ローム株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 社長執行役員
東 克己
(コード:6963、東証プライム市場)
問合せ先責任者 広報 IR 部 統括課長 後藤 辰英
(TEL.075-311-2121)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2025 年 11 月 6 日に公表した 2026 年 3 月期通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2026 年 3 月期通期連結業績予想値の修正 (2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	460,000	5,000	11,000	9,000	23.31
今 回 修 正 予 想 (B)	480,000	6,000	11,000	10,000	25.91
増 減 額 (B - A)	20,000	1,000	0	1,000	-
増 減 率 (%)	4.3	20.0	0	11.1	-
(参 考) 前 期 実 績 (2025 年 3 月期)	448,466	△ 40,061	△ 29,698	△ 50,065	△ 129.78

2. 修正の理由

世界経済は全体として緩やかな回復に向かいつつありますが、米国の通商政策をはじめとする地政学的リスクは高まりを見せており、依然として先行きは不透明な状況が続いています。エレクトロニクス市場においては、気候変動対策や脱炭素化社会に向けた省エネルギー化の推進に加えて、各国における工場の自動化・デジタル化投資などが中長期的には順調に推移するものと思われます。近年では、生成AIの急速な進化と普及により、データセンター関連の投資が大きく増えており、サーバー・ストレージの需要が急拡大しております。これに伴いメモリの需給が著しくひっ迫しており、各市場への影響が懸念されております。

足元においては、自動車市場では中国資本の半導体メーカーによる出荷停止問題が長期化せずに収束したことから、世界の自動車生産台数が年間成長を維持する見通しです。また、コンピュータ&ストレージ市場においても、パソコンやサーバー向け製品の需要が堅調に推移しています。これら両市場の好調に加え、想定を上回る円安進行も寄与し、売上高は計画を上回るペースで推移しています。一方、利益面については、売上増加、円安等が寄与するものの、第3四半期よりSiCパワーデバイス事業における品質保証関連費用が増加しており、当期の利益を押し下げる要因となっております。なお、このコストは自動車市場の量産採用時に顧客との最終調整で発生する一時的なもので、来期以降は改善する見通しです。

以上のような状況を踏まえ、2026 年3月期の通期連結業績予想につきまして、上記のとおり修正いたします。なお、第4 四半期の為替レートは、1 米ドル＝153 円を前提としております。

＜業績等の予想に関する注意事項＞

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上